

道徳教育用教材（小学校中学年用）

千葉市に生きる

夢 思いやり チャレンジ



千葉市教育委員会

はじめに

千葉市では、「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども」を育てることを目標に、いろいろなことに取り組んでいます。

この資料には、皆さんもよく知っている国際千葉駅伝や、親子三大夏祭り、放課後子ども教室、そして、よく見学に行く清掃工場が登場します。

ぜひ皆さんには、本資料を道徳の時間の中で活用し、千葉市のよさを再認識するとともに、資料に登場する人物の立場や気持ちになり、友だちの考えを聞いたり自分の意見を述べ合ったりする中で、これまでの自分を振り返り、これからの自分の生き方・あり方を見つけていってほしいと願っています。

また、夢を持ち、思いやりの心や目標に向かってチャレンジする気持ちが、心の中に育まれていくことを願っています。

指導課長 磯野 和美

目次

1	〇〇博士になろう	2
2	わたしたちの町への思い	6
3	みんなで楽しく	10
4	今できること	
	くちよう戦	
	しょうきやくごみ	
	三分の一さくげんく	14



©国際千葉駅伝

〇〇博士はかせになろう

「来週までに、調べる国を決めてきてください。」

「どの国にしようかな。アメリカもいいし、ドイツもいいし……。こまっちゃうな。」

広子のクラスでは、そう合的な学習の時間に世界の国について調べることになりました。広子はどこの国について調べればよいのか、まよっています。

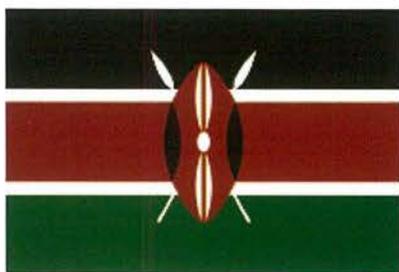
「おっ、今日は国さい千葉駅伝の日か。今年は見に行ってみるかな。広子もいっしょに行かない。」

休みの日の朝、お父さんがテレビの番組表を見ながら言いました。

「国さい千葉駅伝ってなに。」

「世界中から国を代表するせん手たちが、千葉市に集まってきそい合う、有名な大会だよ。男女こん合で行う駅伝なんだ。スポーツセンターをスタートして、それぞれの国のせん手がたすきをリレーしていくんだ。」

「いろいろな国のせん手が走るの。おもしろそう。行ってみようかな。」



ケニアの国き



©国際千葉駅伝

お父さんといっしょにコースに行ってみると、大ぜいの人が走ってくるせん手を待っています。しばらくして、せん手が走ってくるのが見えきました。その集だんの先頭に、力強く走ってくるはだの黒いせん手がいます。そのせん手は手足が長く、広子の目の前を、あっという間に走りすぎていきました。

広子はびっくりして、

「お父さん、あのせん手はこの国の人なの。」

と、聞きました。

「あれはケニアのせん手だよ。ものすごい速さだったね。」

「ケニアって、どこにあるのかな」

「アフリカ大陸にある国だよ。」

「そうなんだ。ケニアってどんな国なんだろう。」

そう合的な学習の時間で、世界の国について調べることになっていた広子は、ケニアについて調べることに決めました。

そう合的な学習の時間になりました。まず、広子は図書室でケニアの国きについて調べてみました。ケニアの国きの真ん中には、たととやりがかかれています。そのたたとやりはケニアに住む、マサイ族のものだと書いてありました。

インターネットで調べてみると、マサイ族は日本人とはずいぶんちがうところがある人たちだとわかりました。たとえば、野生動物が住んでいる草原でくらすマサ

イ族は、もうじゅうたちから身を守るため、遠くを見つめる生活が多いことから、シカがひじょうによく、四キロメートル先にいる人が何をしているのかがわかる人やジャンプカがあり、真上に一メートルもとぶことができる人もいるそうです。

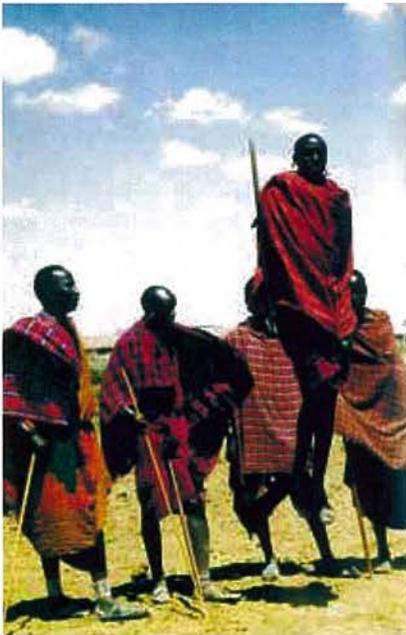
また、ケニアのどんとうてきな食事は、どんぶんしつが多いのが、とくちょうです。ウガリ（白トウモロコシのケーキ）はケニアを代表する食べ物です。

広子は、自分がケニアについて調べたことを早く発表したいと思いました。

学習発表会の日、クラスのみんながいろいろな国について発表しました。

広子は、ケニアの国キヤマサイ族の写真、ケニアに住む動物の写真を見せるたびに、友だちからかん声があがりました。

「広子さんは、『ケニアはかせ』だね。」
広子はとてもうれしくなりました。



マサイ族のジャンプ ©平岩道夫&雅代

次は正太さんの発表です。正太さんはすもうをやっている、日本で多くのカシが活やくしているモンゴルについて調べたそうです。

「モンゴルにはゲルというテントのような家に住んでいる人々もいます。その人たちは羊や馬、やぎ、牛、ラクダを育てていて、新せんな草が生えている場所をさがして、きせつごとに引っ越ししながら生活しています。家は三十分で分かいし、一時間です。間です。組み立てられるのだそうです。これがゲルの写真です。」

「今度はモンゴルはかせのたん生だ。」
みんなは、大きなはく手をしました。

こうして、広子のクラスには、たくさんのはかせが生まれました。発表会が終わったとき、みんなはとてもにこにこしていました。

☆広子はどんな気持ちでケニアについて

調べていったのでしょうか。

☆あなたはどの国のはかせになりたいですか。



テントのような家（ゲル）

わたしたちの町への思い

和美さんたちは、社会科の時間に、『千葉の親子三代夏祭り』について調べることになりました。

それは、和美さんが、夏に『千葉の親子三代夏祭り』で見た、おみこしのパレードや千葉おどりのことなどを思い出したからです。

インターネットで調べてみると、昭和五十一年に、一回目の親子三代夏祭りが始まって、平成二十三年で三十六回目。お祭りを始めたのは、『千葉市を美しくする会』だということがしだいにわかってきました。

しかし、『親子三代』という名前がどうしてついたのかは、わかりませんでした。そこで、お祭りの名前については、市役所に行ってお話を聞くことにしました。





親子三代夏祭りの名前は、このお祭りが親子三代で長い間楽しんでさんかしてほしいというねがいからつけられました。



お祭りを通して、千葉市のよいところを知ってもらいたいです。大人になって千葉市をはなれたとしても、また千葉市にもどってきてほしい。そして自分たちの手で町をよくしてほしいという思いが、このお祭りにこめられています。

と、教えてくださいました。和美さんは、お話を聞きながら、お祭りへの思いがあることにも気づきました。

和美さんのグループは、社会科の時間に『千葉の親子三代夏祭り』について、調べてわかったことを発表しました。

発表が終わると、先生が聞きました。

「みなさんの町にも、今も続いているお祭りなどはありますか。」

「そういえば、町のお祭りも昔からやっているってお母さんが言っていたな。」

「町のお祭りは、いつからやっているのかな。」

「だれが計画を立てているのかな。」

「何でお祭りをやっているんだろう。」

和美さんたちは、また、いろいろなき問が出てきました。

しばらくすると、先生が昔の町のことを話していただくために、町の方々を学校におよびしました。その中には、お祭りの実行委員の方もいらっしゃいました。みんなが毎朝会う、セーフティウォッチャーの上田さんです。上田さんは、お祭りではつびやおみこしの写真なども持ってきてくださいました。

「お祭りのじゅんびは、ずい分前から始まります。まず、今年のお祭りの内ようや分たんなどから話し合います。分たんが決まると、お祭りに必要な材料を決めたり、注文をしたりします。お祭りの当日は、朝からじゅんびをしますが、内ようによっては、数日前からじゅんびが始まります。毎年、大変です。」

と、話してくださいました。

「お祭りは夕方からなのに、数日前からいろいろな人がかわり、じゅんびをしているんだ。」

みんなは、じゅんびの大変さにおどろきました。



「いつも、夕方になるとお祭りに行って、おいしいものを食べたり、ぼんおどりをしていたりしたけど・・・。」

和美さんは、前にぎ間に思ったことを聞いてみることにしました。

「何で、お祭りのじゅんぴは大変なのに、毎年お祭りをやるんですか。」
「それは、町のみんなに楽しんでもらいたいからです。そして、お祭りを通して、町のみんなが一つになるとよいと思っています。しゅう職したり、けっこんしたりして町をはなれた人も、お祭りの時期に帰ってきてくれるとうれしいです。」

と、上田さんは、にこにこしながら話してくださいました。

「上田さんも『千葉市を美しくする会』の方々も町への思いがあるんだな。」

和美さんは、上田さんのお話を聞きながら、これからの地いきと自分のくらしについて、考えていました。



☆お祭りに対する町の人の思いを知って、どう思いましたか。これから、町の行事にどんな気持ちでさんかしますか。

☆あなたは、これから地いきの人たちとどのようにかかわっていきますか。

みんなであそぶ

ぼくたちの学校では、毎週木曜日の放課後に一年生から四年生を集めて放課後子ども教室が開かれます。そこでは、地域のボランティアの方が活動を見守ってくれています。ドッジボールをしたり工作をしたりすることが出来る木曜日をみんなが楽しみにしています。

そして、今年の四月。

ぼくたちは四年生となり、その放課後子ども教室の中で最上級生となりました。

「のぼる君、今日はだれがおにをやろの。」

「わたしは、お兄ちゃんと同じチームがいいなあ。」

一年生は、ぼくたちと一緒にいる聞いてきます。「お兄ちゃんなんて言われるとちょっとうれしくさいけど、いい気分です。」

「今年はいよいよのぼる君たちがリーダーだな。たのんだぞ。」
指どう員の田中さんからそう言われて、ぼくたちは六年生みたいだなと思いました。





だけど、最近はその一年生も言うことを聞いてくれません。この前、竹とんぼ作りをした時のことです。一年生には本当におもしろいようで、指どう員さんたちがいっしょに作ってくれていました。

それなのに、とちゅうで一年生はあきてしまったのか、残った竹で遊んだり大きな声でおしゃべりをしたりしていました。ぼくは、一年生に、

「しっかりやってよ。遊んでないで。」

と何度も注意をしましたが、

「だって、できないもん。やりたくないよ。」

ぼくの言うことはちっとも聞いてくれませんでした。そればかりか、指どう員の田中さんには、

「おこってばかりではだめだよ。」

と言われてしまいました。

当然なことを言ったただけなのに……。ぼくは、すっかりやる気を無くしてしまいました。リーダーなんてめんどうだな……。

次の日の昼休みになかよし活動がありました。今日はみんなで長なわ大会において練習をする日です。六年生がなわを回して五年生から入り、四年、三年、二年、一年という順番でとんでいきました。二年生までは順調に続けてとべるのに、どうしても一年生の番になると引っかかってしまいます。思うように記録がのびませんでした。みんな少しいらいらし始め、一年生も

「こんなのいやだ。やりたくない。」

と今にも泣き出しそうです。ぼくはどうしたらいいのか分からず、はらはらしながらだまって見守っていました。

「五年生、ちょっとなわを回すのを交代してくれるかな。」
六年生はそう言うと、一年生のとなりによりそって、手をつなぎました。

「さあ、いっしょにとんでみるよ。せいの一、二。」
でも、なわをとぶタイミングがなかなか合いません。

「だいじょうぶ、落ち着いて。最初はみんなうまくできなかつたんだ。もう一度やってみよう。せいの一！」



いつしかなわを回す五年生もぼくたちも、六年生に合わせてみんなが「せいの一！」のかけ声を出していました。二、三年生から「がんばれ」コールも起こっています。ぼくたちも思わず、

「その調子だよ、いいぞ。」

と大きな声でおうえんしました。

「せいの一！、二！」

「やった！とべたね！」

周りのみんなから大きなはく手がおこりました。一年生のとびきりすてきなえがおが見えました。

「やっぱり、六年生ってすごいよな。ぼくも放課後子ども教室ではリーダーなんだ。ぼくもみんなも楽しく遊べるように、ぼくには何ができるのだろう。」

☆六年生の姿を見て、ぼくたちはどんなことを考えたでしょうか。

☆学校の中で自分にできることは何でしょう。

今できること

ちようせん！しようきやくごみ三分の一さくげん

つよしは、本だなの中や、ベッドの周りにちらばっているマンガ本を一冊ずつ手に取りながら宿題のプリントをさがしていました。どこにやったんだろう……。つよしは、いろいろな物がごちゃごちゃに入っている引き出しの底の方をさがしました。やっぱり見つかりません。すると、お母さんが顔を出しました。

「また、さがしものなの。」

つよしは、困った顔でふり向くと、

「うん。プリントが見つからないんだよ。」

と、言いました。すると、お母さんは、

「それって、ごみに出したんじゃない。」

それを聞いたつよしは、はっとしました。そういえば、この前つくえのまわりのごみをとてきとうにすてたことを思い出しました。そこで、お母さんが

「だからいつも言ってるでしょう、きちんと確かめてからすてなさいって。そういうば、明日は、清そう工場へ社会科見学に行くのよね。ごみやかんきょうについて、たくさん勉強していらっしやい。」

つよしは、かんきょう問題についてテレビや新聞で見たことがあったので、かん

きょうなんか今さら勉強しなくたって……。と、心の中でつぶやきました。

次の日、つよしは、清そう工場に社会科見学へ行きました。大きな工場の中には、家庭などから集められたごみがたくさんありました。この集められたごみが、しょうきやくボイラという所で燃やされるのだと、しせつの方がおっしゃったとき、

「たくさん燃やしちゃえば、ごみがへってエコだね。」

と、言った友だちがいました。すると、係の人は、こまった顔をしながら、

「それは、エコとは言わないだよ。ごみを燃やすことは、大変なエネルギーを使うんだ。たしかにごみは、しょうきやくすることによって十分の一にへらすことができる。そして、その灰もスラグというものに作り変え、建材や道路し材などに使われている。それでも千葉市では年間二十六万八千トンをはくごみをたくさんのお金でしよ理をしているんだ。お金だけではなく、ごみがたくさん出れば、ごみしゅう集車がたくさん取りに行かなければならない。もやすためにたくさんのねん料が必要になるといことなんだよ。」

スラグ・スラグとは、かねんごみをもやしたときで る灰（はい）を、電気でねんガスを使っ 上の高温にかねつして人工すな です。
--

ごみがなくなればエコだと思っ
たつよしはおどろきました。

係の方は続けて言いました。

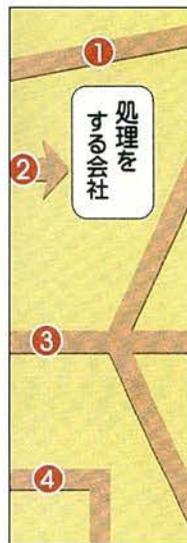
「みんながごみを減らすことによっ
て、清そう工場の建てかえ費用が
へるし地球温暖化のぼう止にも
役立つんだよ。だから、千葉市で
は、『ちようせん！しようきやくごみ
三分の一さくげん』を目指してい
るんだ。そのためには、①ごみを作
らない出さないかんきょうづくり
②分別によるしようきやくごみのさ
くげんの二つをみんなにも考えてい
ってもらいたいな。これは、その取
組みのキャラクターの『へらそうく
ん』だよ。」

つよしは、ごみのこともかんきょう
のことも、知らないことがたくさ

にい はま
新浜リサイクルセンター



- 資源物を細かく分ける……①
- 有害ごみを、保管する……②
- 不燃ごみと粗大ごみを細かく
くだいて分ける……③
- 粗大ごみを修理・再生する……④



千葉市環境教育教材
ちばキッズエコエコ大作戦より

んあることに気づきました。

家に帰るとつよしはすぐに千葉市のホームページを開きました。「ちようせん！しょうきゃくごみ三分の一さくげん」のほかに、「ちばルール」というページも見つけました。

- ルール① ごみをふやさない買い物をする。
- ルール② もののさい生、さい利用をする。
- ルール③ さい生利用できるものは、しげん回しゆうに出す。

『分ければしげん、まぜればごみ……。』か……。
ごみを出すすぼくたちが考えていかなきゃいけないんだな。
うん、ぼくにもできることがあるぞ。



「しょうきゃくごみ
三分の一さくげん」キャラクター
「へらそうくん」

☆つよしのできることは、どんなことでしょうか。
☆今までの自分の生活で直したいこと、
これからの生活で取り組んでいきたいことについて考えてみましょう。

「道徳教育用教材（小学校中学年用）・千葉市に生きる」作成委員

●学識経験者

植草学園大学 教授 黒岩 絹子

●委員長

千葉市立弥生小学校長 塚本 充

●委員

千葉市立こてはし台小学校 石川 真沙子

千葉市立打瀬小学校 川島 恵子

千葉市立山王小学校 川村 陽平

千葉市立大森小学校 佐藤 晃代

千葉市立真砂東小学校 佐藤 綾子

千葉市立扇田小学校 高橋 知夫

千葉市立桜木小学校 多田 幸城

千葉市立園生小学校 寺田 文子

千葉市立本町小学校 長谷川早由里

千葉市立松ヶ丘小学校 藤木 太郎

千葉市立千城小学校 水城 大輔

千葉市立鶴沢小学校 森 美香

●イラスト協力

千葉市立大森小学校 望月 千紗

●千葉市教育委員会事務局

指導課長 磯野 和美

指導課主幹 山本 幸人

指導課指導主事 尾高 正浩

平成24年3月

編集者 千葉市教育委員会

印刷者 株式会社 プリンテクス

発行者 千葉市教育委員会

千葉市中央区問屋町1-35